カイ側柄ヲ具ヘ縦ハ二乃至六「センチメートル」幅ハ三乃至十二「センチメートル」厚サハ一乃至十「ミリメートル」アル表面ハ緋色ヲ帯ビ老ユルト褪色スル平滑デ稍光澤ガアリ微弱ナ同心的ノ輪層ヲ具ヘルカ或ハ全ク之ヲ缺テヰル傘緣ハ薄クテ鋭イ内部ノ肉ハ緋色ヲ呈スル菌柄ハ若シ存在スル場合ニハ楯形ヲ成シテ基物面ニ附著スル其長サハ一乃至六「ミリメートル」太サハ七乃至十八「ミリメートル」アル菌傘ノ裏ハ鮮赤色デ頗ル細カイ圓イ孔ヲ認メル此孔ハ菌管ノ口元デ菌管ハ極メテ短ク僅カニ〇・五乃至二「ミリメートル」ノ長サヲ有スルニ過ギナイ菌管ノ内面ニハ全體ニ小サナ楕圓形ノ胞子ヲ著ケテヰル

此菌ハ予ノ所藏スル標本ニヨルトあかまつ、もみ、すぎ、あかしで、しらかんば、くり、あまぐり、しひのき、こなら、みづなら、くは、やまざくら、もゝ、はぜのき、いたやかへで、しなのき等ヲ寄主トスル其分布モ中々廣ク北海道デハ後志、釧路、本島デハ陸中、陸前、加賀、越中、磐城、常陸、武藏、上野、下野、信濃、下總、伊豆、駿河、三河、伊勢、美濃、攝津、播磨、紀伊、淡路、備中、長門、因幡、伯耆、四國デハ阿波、伊豫、土佐、九州デハ豊後、日向、大隅、薩摩ニ産シ小笠原島、琉球、臺灣及ビ朝鮮ニモ産スル海外ニ於ケル分布モ頗ル廣クテ支那、比律賓、爪哇、スマトラ、ボルネオ、マラッカ、新西蘭、濠洲、タスマニア、亞弗利加、マダガスカル、北米、中米、南米、西印度諸島、大洋諸島ニ産シ世界中ノ暖地ニハ殆ド何處ニモ見出サレル位デアル

【牧野云フ】右緋色たけノ記事ハ安田君ガマダ達者ナ時分ニ本誌ノ爲メニ私ニ送ラレタモノデアル

○二三ノ菊科植物

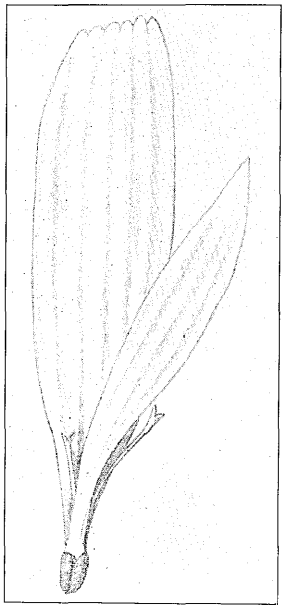
久内清孝

●りゅうのうぎく

りゅうのうぎくノ舌狀花ハ概ネ雌性花デ多クハ雄蘂ノ發現ヲ見ナイモノナルコトハ極メ

テ平凡ナコトデアラウ

此ノ舌狀雌性花ニ更ニ舌狀瓣ガ出來ルコトガアル其場合ニハ頭狀花序ノ內方ニ一個短カク外方ノ常態ノモノニ相對シテ生ジ一見唇形狀ヲ呈スルコトガアル（第一圖參照）



第一圖（擴大）

コレハ極メテ異狀ナ現象デ斯クノ如キ場合ニハ決シテ一花デハナイ即チ花ノ內部ヲ見ルト柱頭ガ叉狀ニナリタル黃色ノ雌蘂ガ二個アリ且ツ子房ニハ縱線ガアル其レ故二個ノ舌狀花ガ癒合シテ居ルノデアル即チ二花ガ癒合シテ一花ニ見エルノダカラ甚ダ面白イ私ハ始メ內方ノ筒狀花ガ外側ノ舌狀ニ癒合シタモノデハナイカト疑ッテ見タガ雄蘂ガナイトコロカラ推シテ舌狀花ガ癒合シタモノト言フ方ガ都合ガヨイ樣ニ思フ然シソレガ腹合セニナッテ居ルノハ額ル珍無類デアルシカシ余ノ視タル所デハ一花序中斯クノ如キ花ハ極メテ少ナカッタ、若シ一花序中ノ全舌狀花ガコノ樣ニナッタラ一種ノ異形八重咲ニナリ見事ナモノニナルト思ハレタガ未ダ其樣ナモノニ出會ハナイノハ遺憾デアル、今コヽニ言フ所ノモノハ昨年十月相州箱根宮城野ニ於ケル觀察デアル

●こんぎく　野生ノこんぎくノ卽チのこんぎくノ舌狀花ガ中程又ハ基部迄二ツニ分裂スルコトガアル、先年余ガ信州木曾上松ノ木曾川畔デ得タモノハ凡テノ舌狀花ガ其ノ樣ニナッテ居タカラコレハ明白ナ變種ト考ヘテ居タノデアルガ昨年相州箱根仙石デ觀察シタルモノニハ斯ク分裂セルモノトセザルモノトガアッタカラコレハ寧ロこんぎくガ時々現ハス特異性ト考ヘタ方ガ妥當デアル樣ニ思ハレルカラ記シテ好事家ノ御參考ニ供スル

第二圖　てばこもみぢがさ
(Cacalia tebakoensis MAKINO.)

●てばこもみぢがさ　本種ヲ牧野先生ガ明治四十三年ニ東京植物學雜誌ノ第二十四巻ニもみぢがさノ一變種トシテ發表サレテ以來余等ハコノ草ハ先生ノ祖國ナル土佐ノ手箇山ノ特産品ト考ヘテ居タ、マタ植物研究雜誌二ノ六ニCacalia tebakoensis MAKINO. ト改メラレテカラモ此ノ考ハ變ラナカッタ然ルニ近年ニ至リ余ハコノ珍草ハ關東地方ニ極メテ普通ナルニ氣付イタ余ノ採集シタルモノニ就キ産地ヲ擧グレバ東京附近デハ例ノ武州高尾山ノ山中ニもみぢがさト混生シテ居ル、更ニ相州丹澤山彙ノ蛭ケ嶽、塔ケ嶽、三ツ境（所謂丹澤山）ノ林中ニモ産シ甲州三ツ峠、相州箱根神山等ノ林地モ亦其産地デアル

一見もみぢがさニ似テ居ルノデ混同サレタ爲メ吾人ハ久シク此事實ヲ知ラナカッタガ葉形ニ於テモ、葉裏ノ脈ニ於テモ仔細ニ見ルトキニハ全ク異ッテ居ッテ乾標本ニ就テ見レバ脈ガ隆起シ居ッテ直グもみぢがさト區別ガツク、生態ハ兩者極メテ酷似シ下部葉腋ヨリハ時ニつるヲ出シ地下ニハ必ラズ匍枝ノ横走ヲ見ル、シカシもみぢがさニ比シ概シテ小形且ツ纖細デアル

恐ラク關東各地ノヤヽ高キ山地ノ樹林中ニハ到ル處ニ產スルモノト信ズルガ今此ニ現在マデ判明セル產地ヲ報ジテ置ク（第二圖ナル寫眞ハ武州高尾山ノ產品デアル）

○徽臭舊稿（其二）松平子爵邸ノ一新植物

（明治三十八年八月十三日發行『日本園藝雜誌』第百五十九號）

牧野富太郎

一日山草培養ノ巨擘ナル子爵松平康民君ヲ其邸ニ訪フタトコロ同君ハ直ニ其愛植セラレタル多數ノ奇卉珍草ノ間ニ予ヲ導カレタ、中ニ今丁度花ガ開イテ居ル一個ノ珍ラシキ盆栽ヲ見タ、同君ノ言ハルヽニハ此品ハ曾テ清國產ノ一莖九花（蘭ノ一品ニシテ蓋シ Cymbidium xiphiifolium Lindl. ナラン）ヲ購入シタトキ其株ニ附着シテ來タモノデ愛護ノ結果今年始メテ花ヲ開イタガ其名ハ何トイフモノデアラウカト、予乃チ其花ヲ檢シテ其金纓梅科即チまんさく科ノ一品デアルコトハ直ニ見當ガツイタガ日本ニ其近似品ガナイノデ其屬名マデハ指摘スルコト出來ナカッタ、ソコデ惠マレタル一小枝ヲ携ヘ歸ッテ調ベタ所直ニ其名ガ分ッタ即チ Loropetalum chinense R. Br. ナル學名ヲ有スル一灌木デ支那デハ極メテ普通ニ見ル一品ノ樣デアル、支那ノ植物ヲ記シタル書籍ニ擧ゲテアル本品ノ產地ハ浙江省ノ大湖、寧波、江西省ノ九江、福建省ノ厦門、湖北省ノ宜昌、巴東、廣東省ノ北江、四川省ノ南川、及ビ舟山群島等デアル、又本品ノ產地ハ啻ニ支那ノミデナク遠クイギリス領インドニマデ波及シ同國カシア山ニ在テハ四千乃至五千英尺ノ高地ニ產スルノデアル

此植物ハ夙ニレオナルド、プルケネット氏ガ其著ノ「アマルテルム、ボタニクム」ト題セル書ニテ公ニシテ居ル此書ハキリスト紀元一千七百〇五年（今ヨリ二百年前）イギリス國ロンドン府デ出版シタモノデアル降テ一千八百十八年ニロバート、ブラウン氏ガ之ヲ Hamamelis chinensis R. Br. ト命名シテ圖說シタ之レガ此植物ニ學名ノ出來タ始メデアル、ロバート、ブラウン氏ハ此ノ如ク之ヲ Hamamelis 即チまんさく屬ヘ入レハ入レ